

平成23年度病害虫発生予察注意報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所
TEL 0736-64-2300

1. 病害虫名：かいよう病
2. 対象作物：カンキツ（甘夏、ネーブル、伊予柑等の罹病性品種）
3. 発生地域：県下全域
4. 発生量：多
5. 発生期間：葉（発芽直後～10月） 果実（幼果～10月）
6. 注意報発令の根拠
 - 1) 病害虫発生予察ほ場（無防除）における越冬病斑量は発病葉率が15.1%とほぼ
平年並（平年17.1%）であったが、6月20日現在の新葉の発病葉率は41.0%（平
年18.0%）と平年より高かった（図1）。
 - 2) 6月15～16日のカンキツ病害虫発生予察巡回調査によると、発病葉率は1.0%
（平年1.3%）とほぼ平年並であるが、発病園率は23%（平年15%）と平年より
多く（図2）、県下全域で菌密度が増加傾向にあると思われる。罹病性品種やそ
の近隣にあるウンシュウミカンで広範囲に感染が拡大しており（図3）、今後の
気象条件によっては発病がさらに増加すると予想される。
 - 3) 過去の多発年において6月の発病園率が35%（図2）、発病葉率が3.8%であ
った1999年は、7月の発病園率が69%に増加し、発病果率6.2%を示した。また、
発病園率43%（図2）、発病葉率3.2%であった2005年は、7月の発病園率が70
%に増加し、発病果率が2.6%を示したことから、近年の発病園率の増加から被
害の拡大が心配される。
7. 防除上の注意事項
 - 1) 春葉の病斑は果実への伝染源となるので剪除する。夏秋梢の病斑は、果実及び
翌春の伝染源になるので、病斑を形成した夏秋梢及び不要な夏秋梢は剪除に努め
る。また、幼木、高接樹ではミカンハモグリガの防除を徹底する。
 - 2) 防風垣の整備等を行い、防風対策に努める。
 - 3) 罹病性品種の場合、10月頃まで果実への感染の危険があるため、これらの品
種や常発園、多発園では炭酸カルシウム剤200倍加用銅水和剤の予防散布を励行
する。今後の気象情報に注意し、台風等の強風雨が予想される場合には、事前に
薬剤散布を行う。なお、高温時の散布による薬害に注意する。
 - 4) 農薬については、最新の登録情報（http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.html 農林水産消費安全技術センターHP農薬登録情報検索システム）を参照し、適正に使用する。

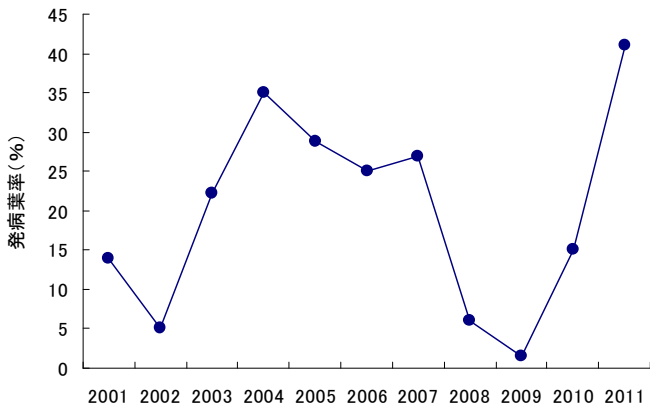


図 1 予察ほ場のネーブルにおけるかいよう病の発病率の推移
※ 6月中旬頃に調査

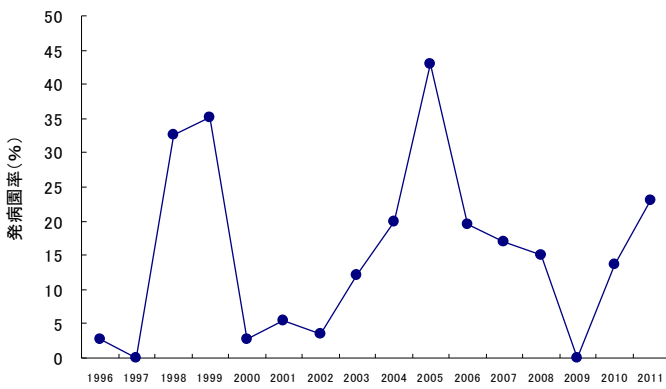


図 2 県内におけるかいよう病の発病率の推移（巡回調査による）
※ 6月中旬頃に調査

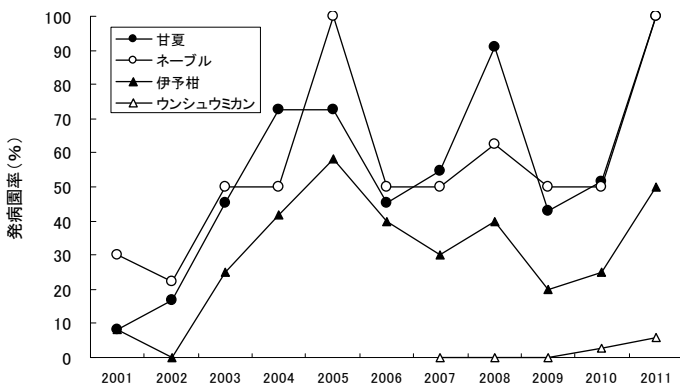


図 3 県内における品種別のかいよう病の発病率の推移（巡回調査による）
※ 6月中旬頃に調査